

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第197号

Nanae Historical
Museum Collection

ななえ古写真物語 VOL.197

鎮魂の山

雲井沼とばんだい号遭難事件

昭和50年ころ

横津岳



この景色が七飯町にあることを知っている人は、少ないかもしれない。笹や低木に覆われた山、風雪が強く高く成長できないのだろう。七飯町で1,000mを超える山といえば、駒ヶ岳が知られるが、双壁をなすこちらの横津岳の方が、七飯町で最も標高の高い山であり、多様な高山性植物が観察できる山である。

わかりにくいかもしれないが、写真の中央左側に写っている水面は、雲井沼と呼ばれ、雪解けから秋季にかけて見られる沼である。雪解け水によるものか、湧水によるものかはわからないが、横津岳とそれに連なる山には、こういった高層湿原が点在しているため、ワタスゲやモウセンゴケといった湿生植物が観察できる好適地でもある。

また、雲井沼の傍には、数名の人物が立っているのがわかると思う、そして、その後ろに祀られている祠が横津神社である。七飯町内で最も天に近い神社といえるだろう。扁額には「横津神社」と記されているが、横津岳神社とか、横津山神社とも呼ばれ、雲井沼と同様に、人知れず静かに季節の移ろいを見守っている。そんな雰囲気のある社である。

この横津神社の由来について、七飯町史に記載はないのだが、もともと管理されず朽ちかけていた祠を、麓にある横津山心不動院で再建し、現在も管理しているという。

横津岳とそれに連なる山々に蓄えられた雨水は、長い年月をかけ地下水として蓄えられ、七飯町の水道水として利用されているし、かつてはスキー場やゴルフ場、プラネタリウム、SL公園、宿泊施設などが設けられ、「函館グリーンランド」という一大レジャー施設もあった。これらは現在、すべて閉鎖となり、メガソーラー施設に転用されたりと、その姿を変えた。

一方で、さらに悲しい歴史もある。昭和46（1971）年7月3日、丘珠空港を出発したYS-11、8764機「ばんだい号」という飛行機が、乗客64名を乗せ函館空港へ向かう途中、悪天候による視界不良のため遭難、レーダーからも消息を絶った後、横津岳に激突四散した姿で発見された。航空史に残る大惨事である。

その後、航空のさらなる安全性を高めるため、山頂部には、航空レーダーが設置された。以降、同様の事件は起こっていない。写真の山頂部に写る建物は、現在のものと姿が異なるが、レーダー施設と思われる。

また七飯町では、遭難者の追悼のため「ばんだい号遭難者慰霊碑」を建立し、毎年冥福を祈っている。

七飯町で最も天に近い横津岳。その歴史は悲しみも多いが、今でも信仰の場、航空安全の要として存在し、飛行機の墜落事故や、登山遭難者たちの、鎮魂の山のように聳えている。

6月の予定

10日 春の野草園の整備

今年もボランティアの方々が野草園の整備を行って来ています。枯葉の除去や草取り、剪定など、来館者が足を止めて見てくれるのは、こうした活動の丁寧な仕事があるからです。開館当初から設置された野草園は、現在第1野草園から第3野草園まであります。七重村御薬園や七重官園時代に栽培されていたものを中心に、草花や樹木があり、表示板も設置しています。また館では、春に苗をつくり、野草園に移植する作業も行っています。今年もワタ・カイザイクバナ・ベニバナを育苗しています。



27日 ジュニア探検クラブ

ジュニア探検クラブが始まりました。この日は開講式。自己紹介や館内の見学、バードコール作りなど目白押しです。特にバックヤードの見学は、普段なかなか見ることのできない博物館の大切な場所。みんな興味津々で、周りをキョロキョロ。鳥類の剥製や骨格標本、民具や農具、古いゲーム機まで、多くの資料が並んでいます。好きな鳥の剥製を見つけて喜び子もいれば、後ずさりする子も。みんなの好奇心に、少しでも光が差す体験を行っていきます。



ロビー展を開催します。

迫力あるクマの剥製にしばし驚くかも知れませんが、近年、クマに遭遇するニュースが後を絶たず、「アーバンベア」という言葉も耳にします。クマの実際の大きさや頭骨からわかる奥歯の発達、鼻の大きさ、牙は体の割には大きくない、など置いている資料からわかるように配置しています。剥製や骨だけでは、尻込みしてしまうかも知れないので、クラフトとしてのクマの「木彫り熊」も合わせて展示、関連する図書も置いています。



1	土
2	日
3	月 休館日
4	火
5	水
6	木 夜の博物館 第1夜
7	金
8	土
9	日
10	月 休館日
11	火
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月 休館日
18	火
19	水
20	木
21	金
22	土
23	日
24	月 休館日
25	火
26	水
27	木
28	金
29	土 ジュニア探検クラブ
30	日

※休館日：3日、10日、17日、24日

ダイヤジャー

寄贈されたこちらの資料は、水を保存するための真空ジャー。レトロなデザインは、今となっては、新鮮です。蓋には「適温・注意・不適温」と表示があります。



編集後記 ~tawagoto~

宮澤賢治『春と修羅』の刊行から今年は100年になるという。子どもの頃は「音」が楽しかったが難解な面もあった賢治作品。大人になって行った、宮澤賢治記念館と注文の多い料理店をイメージしたレストランは、その世界観にわくわくした。独特の自然観や宗教観、エスペラント語を使用した童話や詩集は、年齢を重ねて再読すると、感性に沁みる。「一つずつの小さな現在が続いているだけ」という賢治の言葉を実感する今日この頃。

Pichart ~ピチャリ~

第197号

令和6年5月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp